

\* 前期比：D I・季節調整済

景況

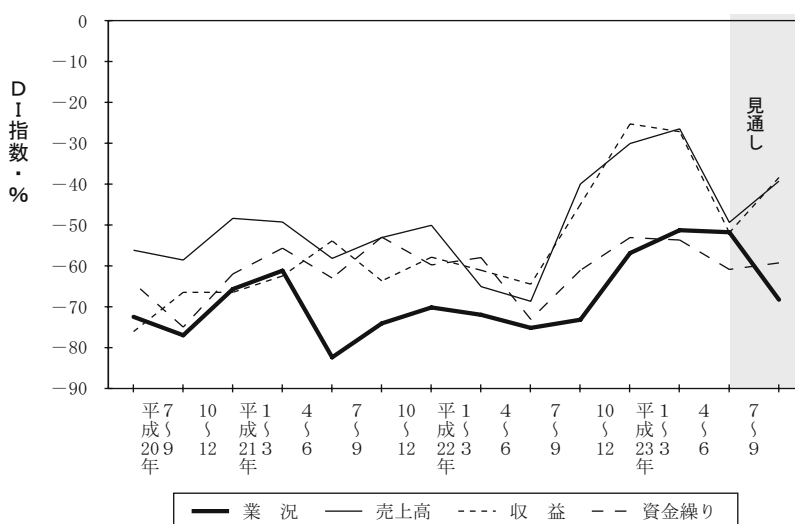
今期の業況判断DI値は-52と前期の予想DI値を10ポイント改善、実績DI値に比べるとほぼ横ばいに推移する結果となりました。売上、収益、資金繰りはともに後退しました。特に売上、収益は、大きく後退しました。設備投資については、前期に比べ3ポイント減少し、事業用土地建物を中心に7%の先が実施しました。

来期の予想業況判断DI値は-68と今期の業況判断DI値に比べ16ポイント悪化すると予想しています。売上、収益、資金繰りについてはともに改善すると予想しています。設備投資については、今期に比べ4ポイント減少し、車両で3%の先が実施を予定しています。

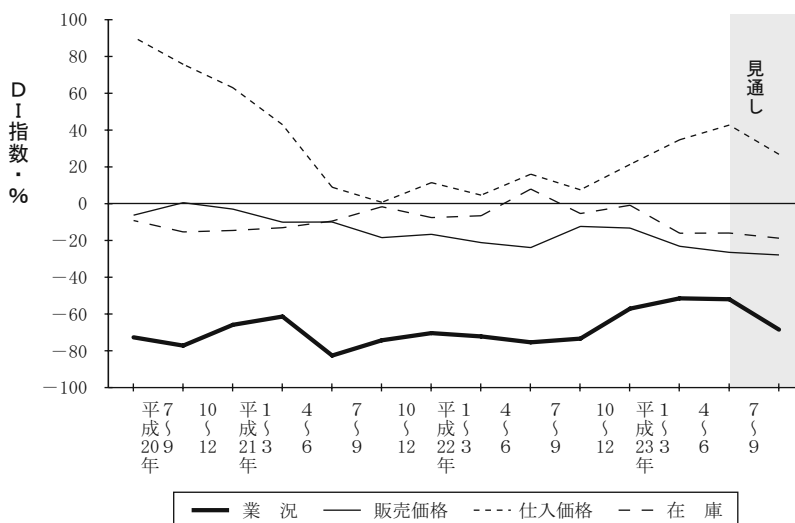
調査員のコメント

- 原発事故による風評被害で鮮魚を食べるのに抵抗があるためか、客足が伸びない。(寿司店)
- 震災後、一時的に客足が伸びず心配したが、半月も経つと今まで通りの売上に戻った。しかし、材料の仕入れ値が上がるのは心配である。(一般食堂)

景況の推移



主な指標の動き



残業、人手、設備状況

